

# 令和8年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第二中学校

校長名 平井 貞昭 公印

## 教育目標

人権尊重の精神に基づき、創造性に満ち、心身の向上を目指して、他と協力できる個性豊かな実践力のある人間を育成する。

- ・豊かな心と知性を養う
- ・強い意志と体力を育てる
- ・勤労意欲と責任感を培う

## 1 目指す特色ある学校像

本校教育目標のもと、次のように【目指す生徒の姿】を示し、加えて本校が【最も重視して培うべき資質・能力】を定め、これらに迫る教育課程を編成し教育目標の達成を目指す。

### 【目指す生徒の姿】

- I 考えを深め豊かに表現する生徒
- II 生命を尊重し心身を鍛え健全に生活する生徒
- III 自分自身と自分が関わるすべての人を大切にする生徒
- IV 将来を見据え見通しをもって学び行動する生徒

### 【最も重視して培うべき資質・能力】

- ① 豊かな言語能力
- ② 計画的に行動する力

指導上のキーワード

自立・共生

## 2 学校経営の目標

### (1) 中期的な目標（令和6年度～8年度）

- ① 令和3・4年度福生市研究奨励校として取り組んだ成果を踏まえて行った、令和4・5年度不登校児童・生徒支援調査研究校としての研究主題「一人一人の生徒が夢や希望をもって生活する学校づくり～生徒が活躍できる「仕掛け」の工夫」を意識した「魅力ある学校づくり」を継続し、不登校出現率を6%程度まで下げる。
- ② 研究を通して、深い生徒理解に基づく生徒及び保護者との信頼関係を構築し、生徒がより良い生き方を追究するように指導・助言できる教員を育成する。
- ③ 地域社会から信頼され、かつ貢献できる学校とするため、CSとしての活動をさらに充実させ、「社会に開かれた教育課程」の理念を実現する。



### (2) 本年度の目標

- ① 「魅力ある学校づくり」として、レベルアップセットを活用し、生徒が安心して学習に取り組める環境を確立し、主体的に学習し将来に向け夢や希望をもって生活する生徒を育成するために、共に認め、励まし合い、支え合う学級や学年づくりを推進する。さらに、生徒がリーダーの経験ができるよう意図的な場を設定する。
- ② 教員の人権感覚を磨くとともに、人権教育を基盤とし、「いじめは絶対に許さない」という風土を全クラスで醸成する。また、特別支援教育、不登校対策等についてのOJTを充実させ、生徒及び保護者との信頼関係を築くことのできる教員の育成を図る。
- ③ 思い込み、決め付けによる指導から脱却し、対話に基づいた健全な学校生活を確立させるため、持続可能な発達支持的生徒指導を推進する。
- ④ 「トリプルスリー」を達成する。第3学年の進路で、中堅の高等学校への進学率3割、都立の「自校作成校」への進学率3%を達成する。
- ⑤ 「対話」に基づく授業づくりを推進する。デジタルを活用したこれからの学びに基づき各単元に必ず、学びのプロセスによる授業展開を実施する。また、この授業を校内研修に位置付け、全教員で協議会を行い、主体的な授業改善を図る。

### 3 目標達成に向けての課題

- (1) 教職員だけでなく、保護者、地域全体で、安心して学べる環境を整えること。
- (2) 全教職員が人権感覚を磨き、思い込み、決め付けによらない対話及びコンプライアンスに基づいた指導を行うとともに、指導指針に定められた手だて等を実践すること。
- (3) 教員が「目指す生徒の姿」「最も重視して培うべき資質・能力」を常に意識し職務に取り組むこと。また、これまでの中学校教育の成果を良き伝統として受け継ぎつつ、新たな課題に対し前向きに取り組む主体的に工夫・改善に努めること。

### 4 経営の具体策

#### (1) 授業改善の徹底（授業における「居場所づくり」）

- ① 「デジタルを活用したこれからの学び」の学びのプロセスを各単元で実施し、生徒の意欲を高め主体的な学習を促す。授業のねらいを引き出す工夫をし、生徒が考える時間を確保し、学び合いの機会を取り入れる。何ができるようになったかを振り返る等の活動を実施する。
- ② 各種調査等により一人一人の学習状況を把握したり、学習の進捗状況からこれまでの指導を振り返ったりして、絶えず、授業改善を繰り返し、指導と評価の一体化を図る。
- ③ 各教科等における個別最適な学びの成果を協働的な学習での学び合いや探究、発表の活動に生かし自らの考えをより深め、新たな学びへと継続的に学習する力の育成を図る。
- ④ 各教科の実態に応じて、帯活動として小テストを実施する。また、給食指導や学校行事等の授業時間外でのALTの活用を推進する。

#### (2) 生徒の主体性を重視した学年・学級経営、学校行事、生徒会活動（「絆づくり」）

- ① 学年集会を計画的に行い、互いに認め、褒める活動はもとより、失敗や間違いについても皆で考え、支え合い、創造する機会を意図的かつ効果的に設け、自己指導能力を育む。
- ② 学校行事では、生徒に自己決定の場を与え、生徒が主体的に取り組めるよう指導する。
- ③ 生徒会活動を活性化し、生徒の自治意識を一層高める。また、朝読書を基盤とした主体的かつ充実した読書活動の継続、ふっさ電子図書館の案内により読書冊数の増加を図る。

#### (3) 生徒理解、特別支援、学校不適応対策について

- ① OJTを充実させ教員の人権感覚を磨くとともに、思い込み、決め付けによる指導によらず、特別支援教育、不登校対策等について造詣を深めさせ、深い生徒理解に基づく生徒及び保護者との信頼関係を構築し、生徒がより良い生き方を追究するように指導・助言できるようにする。
- ② 個別支援委員会（校内委員会）での情報共有を行い、特別支援教室及び日本語学級と通常級の連携を保ち、全教員が一体となった支援を行う体制を維持する。
- ③ 不登校対応巡回教員を、学校不適応・不登校対策担当とし問題解決の推進役とし、校内別室での指導体制を構築する。また、特別支援教育コーディネーターや外部機関と連携し、対応策を立案し支援の充実を図る。

#### (4) CSとして

- ① 放課後学習支援（水曜学習教室）及び長期休業中の学習教室の支援員を地域から募るとともに参加者の拡大を図る。
- ② 「ふたばサポートチーム」（CS委員会）と連携し健全育成の取組を活性化。また、「仕事の話を聴く会」等、様々な企画・運営を行う。
- ③ 地域の一員としての自覚をもたせるため、防災訓練において中学生の参加を推進する。

#### (5) 二中校区の連携推進

中学生による小学校の運動会や学習発表会のボランティア、部活動見学会、体験授業を実施する。二中学区交流会で提案された取組について具体化し一貫性ある指導を実現する。

#### (6) 職場の心理的安全性の確保と同僚性の向上

職場の心理的安全性を確保するために、後ろ向きな発言を避け、職場の士気が高まるような言動を推奨する。また、職場の同僚性を高めるために、共通のテーマをもった教員がゼミ方式で一年間の研究を行い、成果報告会を実施する。また、平日の月当たりの時間在校等時間が45時間以内の教員の割合を70%以上にするるとともに、ICTを効果的に活用し会議の回数を減少させたり、ノー残業デーを設定したりする。

### 5 年度末のチェックポイント

- (1) 生徒及び保護者アンケートにおける主体的な学習に関する肯定的評価が前年度を上回る（目標90%）。また、各種学力調査においても同様の検証を行う。
- (2) 不登校巡回教員を活用し、不登校生徒の出現率について目標を6%程度とする。
- (3) 魅力ある学校づくりレベルアップセットにおける、アンケート項目「授業が分かる」で「当てはまる」の回答の割合が50%以上かつ肯定的な回答の割合が85%以上とする。

